

久保田 信¹・木村 和寛²・田名瀬英朋¹：
日本海沿岸に新たに漂着したムラサキダコ

Shin KUBOTA¹, Kazuhiro KIMURA² and Hidetomo TANASE¹: New stranded record of a blanket octopus *Tremoctopus violaceus gracialis* on coasts of Sea of Japan

熱帯から温帯にかけて外洋の表・中層を浮遊・遊泳するムラサキダコ *Tremoctopus violaceus gracialis* (Eydoux & Souleyet) は(奥谷 2000), わが国の日本海沿岸では, これまで新潟県から福岡県にかけての海岸に漂着した例が数件知られている程度の希少な頭足類の1種であるが(横山・中村 1981; 波部1973; 多部田1969; 西村 1961), 今回, 著者の一人の木村により, 本州日本海沿岸で海岸への漂着個体が発見され, 1個体を採集するとともに, 時と場所をほぼ同じくして多数個体の漂着情報も得られたので報告する。

採集個体のサイズと発見日・場所

2005年8月9日午後2時半頃, 福井県大飯郡高浜町齒部鳥居浜海水浴場の岸边, 水深1.5mで, 雌1個体(頭胴長14cm; 全長67cm)が弱って浮遊しているのを網で捕獲した(図1)

他の目撃例の日付・場所

2005年8月4日, 京都府舞鶴市神埼海水浴場の岸边に多数が生きて浮遊, 砂浜に3個体が打ち上げられ, そのうちの1個体を試食した(木村が知人からの情報として入手)

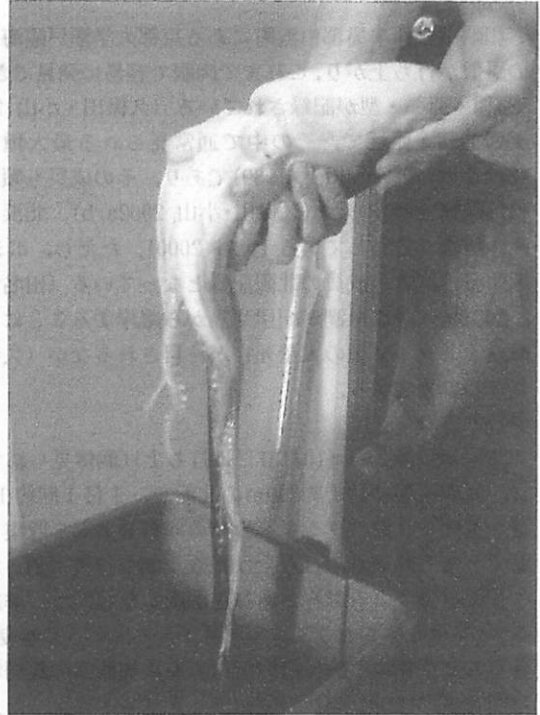


Fig. 1. A female *Tremoctopus violaceus gracialis* stranded on a beach in Fukui Prefecture, Japan.

考 察

上記2地点での発見はいずれも発見日が近接しており, また地点間の距離も22kmほどしか離れていないことから, 2005年8月上旬に, この海域への多数のムラサキダコ集団の漂着があったと推定される。多数個体が群生して発見された例としては, 1967年夏季に北九州沿岸で報告された例がもっとも著しく, 一度に300個体もが漂着している(多部田 1969)。本例の漂着の原因については, 2005年は水温が各地で低いように, 本種が低水温層に遭遇し, 衰弱して岸边に吹き寄せられたと推察される。

引用文献

波部基次. 1973. 兵庫県香住港で採集したムラサキダコ *Tremoctopus violaceus* Delle Chiaje の卵嚢とふ化直後の幼生について, 東海水研報, (72): 1-5.
西村三郎. 1961. 新潟県でとれたムラサキダコ. 採集と飼育, 23(11): 322-323.
奥谷喬司編著. 2000. 日本近海産貝類図鑑. 1173頁, 東海大学出版会, 東京.
多部田 修. 1969. 北九州沿岸における1967年夏季のムラサキダコの大量漂着について. 九州大学農学部学芸雑誌, 24(3): 185-188.
横山 寿・中村 泉. 1981. 舞鶴湾に出現したムラサキダコ. 南紀生物, 23(1): 23-25.

¹ 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所(〒649-2211 和歌山県白浜町459) Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama, Wakayama 649-2211, Japan (e-mail: shkubota@medusanpolyp.mbox.media.kyoto-u.ac.jp)

² 〒534-0001 大阪市都島区馬場町2丁目11-10-620 (11-10-620, 2-chome, Kema-cho, Toshima-ku, Osaka 534-0001)